

是住久美子さんのプロフィール（認定者 No.8）

（チーム・シラベル）

是住さんは今、八面六臂の活躍をしているいわゆる“時のひと”です。京都府立図書館情報サービス課の課長として司書の仕事を行いながら、市民グループ「チーム・シラベル」のメンバーとして、図書館のサービスを市民活動に活かす取り組みを精力的に行っています。

「チーム・シラベル」誕生のいきさつです。まず、2年前の春（2015年4月）に同志社大学大学院総合政策科学研究科（新川達郎教授）で開講された京都府そしてNPOの協働実践演習で、是住さんが「カラーニング」チームを立ちあげたことから活動が始まりました。「カラーニング」とは、共に学ぶということ・・・図書館を単に図書の貸し借りの場とするのではなく、図書を介して、利用者である市民が図書館とともに学び合う場としようとするものです。是住さんは、この「カラーニング」の考え方をプロジェクトとして、京都府に対して「府内ベンチャー」として提案を行いました。そして、その府内ベンチャー提案によって、京都府の府民力推進課NPOパートナーシップセンターの協働コーディネーターとのつながりが生まれ、それをきっかけに京都府庁内に「きょうとフューチャーナレッジセンター～地域力向上図書館連携プロジェクト～」（通称：シラベル）というプラットフォームが、2016年に誕生しました。そして、京都府庁や京都府立図書館そして亀岡市立図書館（中央館）で、図書館の蔵書や資料を、どのように実際の市民活動に活かしていくのかという講座を行い、活動しています。

図書館の従来サービスや機能はこのままでいいのかと思いつけたこと、そして、その想いをいろいろな場所で語り、訴えていったことが多くの人々の共感を集めていきました。是住さんのエネルギーな「行動力」、とことんやり続ける「粘り」、そして未知の領域に足を踏み入れる「チャレンジ精神」は、タダモノの域を超えて、すでに“スーパー！”の領域に入っています。“新しい時代のあるべき図書館の姿”を一途に追い求める是住さんの姿は、そのざっくばらんでキュートな人柄ともあいまって、多くの人に影響を与え、周囲にいる人たちの行動さえも変えてしまう不思議な魅力（マドンナの魅力！？ともいうのでしょうか・・・）に溢れています。

お話を伺っていると、逆風の時や不遇の時代もあったという是住さん。でもそれだからこそ、逆に実直の姿勢を貫くことができたのではないかと思います。

最後に「疾風に勁草を知る」という言葉を思い出しました。しかし、当の本人の是住さんは、やりたい環境でやりたいことをやっていた（いる）だけ・・・かもしれません。「肩ひじ張らずに軽やかに！」ここに、是住さんの人生の極意がある！と思いました。

